

今年度最初の体育部報では、「岡崎市中学生体育大会 第1回 Spring CUP」と「小学校運動会」について紹介します。新たに始まった Spring CUP に向け、当番校としての思いや、大会に臨む生徒の様子について執筆していただきました。また、小学校の運動会に向け、さまざまな工夫や手だてを講じて成功へと導いた体育主任の先生方の思いをまとめていただきました。

学校を越えた絆 今深まる

岡崎市立葵中学校 山本 貴之

「掴め 頂点の輝き 学校を越えた絆 今深まる」

昨年度の第1回 Autumn CUP は、地域ブロック部活動が本格的に始まってから迎える初めての大会であった。生徒たちは新しい形の部活動に戸惑いながらも、出会った仲間とチーム力の向上を目指して練習に取り組んだ。今年度の第1回 Spring CUP のスローガンを考案するにあたり、運動部の部長会を開いたところ、各部長からは、昨年度よりも仲間とかかわり合う楽しさを感じている様子や、学校を越えた絆が生まれている様子が伝えられた。「絆の深まり」を実感しているからか、どの部長もこの仲間と練習の成果を発揮したい、仲間の声を力にして頑張りたい、など前向きな思いをもっており、私の胸は熱くなった。

迎えた第1回 Spring CUP。葵と城北がひとつとなり、「葵城」として、一丸となってプレーしている姿がさらに胸を熱くさせた。仲間を鼓舞する様子や、ナイスプレーの後の弾ける笑顔、声を枯らしながら応援する様子には、地域ブロック部活動が体現したかったことが全て詰まっていた。まさに、スローガンどおり、学校を越えた絆がさらに深まり、全員が頂点を目指そうとしている姿がそこにはあった。

Spring CUP を終え、FINAL CUP まで残りわずかとなった。勝ち切るために、生徒と一緒に練習を考え、チーム練習だけでなく、基礎練習やランメニューなどの厳しい練習もさらに増やした。しかし、生徒たちは声を掛け合いながら真剣に、そして楽しそうに取り組んでいる。生徒全員が仲間とともに活動する楽しさを感じながら、悔いを残さずプレーできるように導いていきたい。



50年の想いをつなげ！新しい竜小へレッツゴー！

岡崎市立竜美丘小学校 羽土 瑞季

創立50周年を迎えた竜美丘小学校。今年度の運動会は、「50年の想いをつなげ！新しい竜小へレッツゴー！」をテーマに掲げて行われた。4月に入って間もなく、6年生から「ソーランリーダーはいつ決めますか」という声が多く上がった。伝統である竜小ソーランへの憧れと責任感を強く感じた。

ソーラン、新演技、シナリオ、製作の4部門のリーダーはオーディションで決定し、活動が始まった。シナリオリーダーの話し合いでは、「これまでの伝統をつなぐとともに、新しい竜小に生まれ変わる姿を表現したい」という思いが共有された。そこから「荒波を進む船で竜美の歴史を表現できないか」「はっぴを脱ぎ、カラーTシャツになることで変化を示したい」など、創造的なアイデアが次々と生まれた。他のリーダーたちもそれに応えるように工夫を重ね、練習や製作に取り組んだ。その姿から、子供たちは、自分たちの手で演技を創り上げていく喜びを実感していた。また、6年生が5年生にソーランを教える場面では、「先輩たちは前向きな言葉をかけながら教えてくれたから、わたしたちも……」という言葉が出ていた。伝統を「つなぐ」という意識が子供たちの中に確かに根付いていると感じた。練習を重ねるにつれて、完成度は着実に高まっていった。しかし、本番1週間前、リーダーたちから「このままでは史上最高とは言えない」という焦りの声が上がリ、「朝や休みの時間を使いたい」との申し出があった。練習環境を整えると、リーダーに感化された6年生が、5年生を巻き込み、時間を惜しんで踊り続けた。その姿からは、本気でよりよいものを追求しようとする強い意志が伝わってきた。

運動会当日、天気にも恵まれ、絶好のコンディションで本番を迎えた。渾身のソーランでは、リズム、指先、目線がそろい、一体感のある演技を披露することができた。演技終盤ではっぴを投げ上げた瞬間、さわやかな風が

吹き、空中でひらひらとはっぴが舞った。まさに「私たちが新しい波を起こす」というせりふの通りであった。演技後、「リーダーにお礼がしたい」という声が自然と上がったのは、自分たちで創り上げたという確かな実感があったからだろう。また、私自身も、子供たちの思いを大切にしながら演技を創り上げるという、これまで受け継がれてきた本校のよさを継承できたことに喜びを感じている。

運動会を通して、子供たちは仲間と協働する力や、目標に向かって最後までやり抜く力を大きく伸ばすことができた。この経験は、これからの竜美丘小学校を導いていく原動力になると確信している。



元気いっぱい 梅っ子チャレンジ

岡崎市立梅園小学校 畔柳 晶帆

先日の岡崎市小中学校体育部感謝の会ならびに歓迎の会で、体育部の先輩方との交流を深めることができた。小学校時代の恩師とも再会し、忌憚のないお話を伺うことができた。そこで、体育部の先輩方が熱い思いで子供たちのために取り組んできたことを知り、私にとって初めてとなる体育主任という大役を全うしたいと思った。そして、本校の運動会を、子供たちの心に残るものにしたいという強い決意を抱いた。

その思いを形にするため、始業前に、毎朝グラウンドの整備とライン引きを行い、子供が気持ちよく練習を始められる環境づくりに努めた。すると、少しずつ一緒に取り組む先生が増え、体育部だけでなく、教職員全体で運動会を成功させるのだという思いが広がっていった。さらに、その思いが次第に子供たちにも伝播していった。代表委員の子供たちが、全校児童がチャレンジできる運動会にしたいという思いを語り、「元気いっぱい 梅っ子チャレンジ」というスローガンを掲げた。こうした子供たちの気持ちの高まりによって、各学年の表現運動や競技種目の練習に目標を立ててチャレンジする子供が増えていった。迎えた本番、どの子供たちも自信に満ち溢れた表情で演技、競技に挑んでいた。その姿は、観客の視線を釘付けにした。

本校は歴史ある学校であり、地域の方は、行事や登下校の際に、いつも子供を温かく見守ってくださる。そこで、来賓や地域の方とも楽しめる機会を設けようと玉入れの実施方法を見直した。また、従来は子供の部と親の部を分けて玉入れを行っていたが、親子で一緒に体を動かす楽しさを味わえるように、一緒に行う形に変更した。さらに、運動が得意な子もそうでない子も楽しく参加できるように、昨年度より多くの玉を準備したり、かごの高さを変化させたりした。本番では、親子が笑顔で協力しながら取り組む姿が見られるとともに、来賓や地域の方も参加し、会場全体が温かい雰囲気包まれた。さらに、参加したすべての子供が家族と運動を楽しむ姿が見られた。

前述の会で、恩師や先輩方の思いに触れたことが、私自身の決意につながり、その思いが教職員、子供たち、保護者、そして地域へと広がっていった。この「思いの伝播」を大切にしながら、これからも体育教師として子供たちの成長に寄り添っていききたい。



令和8年度 岡崎市教育研究大会 リポート作成に向けて

今年度の分科会のテーマは「運動をする楽しさや喜びを味わい、自ら学びを深めていく体育学習」です。また、本年度の実践にあたって重点となるのは「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ことです。具体的な取組としては、次のことが挙げられます。

①魅力的な教材や環境づくりによって、自ら運動したいと思えるようにする

- ⇒子供の実態を考慮した教材、教具選び
- ⇒既存の種目を基にした柔軟なルールの変更や教具の工夫

②子供自身が課題を見付け、その解決に進んで向かえるようにする

- ⇒子供が見通しをもち、自分で課題を見付けられるような支援
- ⇒一斉指導、グループ活動、チーム学習、個別学習などの学習形態の工夫

③種目の楽しさや喜びを味わい、領域の確かな学びを得られるようにする

- ⇒体力、技能等の実態を考慮し、個に応じた活動の場を保障

④ICTを効果的に活用できるようにする

- ⇒活用場面、活用目的の工夫（右図）

<ICT活用場面の例>

- ・興味や関心をもたせる場面
- ・課題の解決方法を考える場面
- ・仲間との関わりの場面
- ・振り返りの場面

<ICT活用目的の例>

- ・仲間の考えを同時に見ること
で、多様な考えを得る
- ・自分の動きを映像で見ること
で、課題を発見する

形式については、後日「OTU」より示されます。一般的な論述として、下の
ような組み立てが考えられます。一貫性のある論述を心がけてください。

（１）研究のねらい（仮説）（２）手だて（３）実践による検証（４）考察（５）今後の課題